2016年度若手研究者国際会議派遣助成 発表報告書

Freshwater Fisheries under Changing of Natural and Social Environment in Lake Kasumigaura

遊佐 暁 YUSA Satoru

The 33rd IGC China-Japan-Korea Joint Conference on Geography, Beijing, China

(1) 研究発表の概要

本発表では、茨城県南部に位置する霞ヶ浦（西浦）における内水面漁業のもつ特性と、近年における環境変化への対応について検討した。John et al. (2014)によれば、水域の人為的な環境改変により外来魚の侵入や水質変化が発生し、地域の内水面漁業に大きな影響を与えることが指摘されている。また、卯田（2011）によると、湖沼の干拓をはじめとする環境変化や政策転換による湖面利用形態の規定は、漁業従事者に対して新たな操業形態をもたらす契機となるとしている。しかしながら、利水や治水等を目的とした湖沼の環境改変が近年日本でも多く行われた一方、公共利益と生業の権利の狭間に存在する内水面漁業従事者の環境変化への対応過程や漁業が受けた影響については十分検証されていない。

本発表では、まず第二次世界大戦後に霞ヶ浦（西浦）において行われた大規模な環境改変について、その背景と目的について整理し、その後、地域の漁業従事者の変化への対応過程および漁業の展開について検討した。霞ヶ浦（西浦）は、1963年に流出河川である常陸利根川と利根川との合流地点に常陸川水門が建設された影響で、それまで汽水湖であったものが完全淡水湖となった。また、1970年から1996年にかけて霞ヶ浦開発事業の一環として行われた護岸堤工事により、湖岸全周がコンクリート護岸となった。これらの事業は塩害および洪水の防止や、首都圏への水資源供給等の利水目的で行われた。しかし、その一方で、汽水域に生息する貝類の消滅をはじめとした湖沼生態系の変化や、ワカサギやシラウオ、テナガエビ等の水産資源種の産卵場所の縮小などを招き、資源量の減少から漁業に対し負の影響が発生した。このような状況の下、漁業従事者らは効率的な採捕を目的としたトロール漁

船の採用や漁網の改良、コイの養殖業の導入、漁獲物の自社加工および販売等、事業形態、操業形態、流通形態を変化させ、漁獲量と収入の維持を図った例がみられた。またその一方で、漁獲量の面においてトロール漁に比べて非効率的な定置網漁等の受動的漁法を営んでいた漁業経営体に、廃業が相次いだ事実も多くみられた。さらに、元来霞ヶ浦一帯は農業との兼業漁家が卓越する地域であったが、周辺市町村の都市化とともに都市における勤労と農業の兼業体制に移行する漁家が相次ぎ、社会的環境と自然的環境の変化が霞ヶ浦漁業にあらゆる影響をもたらしたことが明らかとなった。

このように、霞ヶ浦（西浦）における内水面漁業は、湖沼の環境変化の影響で漁業形態に変化がおき、漁業従事者の淘汰と新たな技術および操業方式の導入が同時に発生していたことが確認できた。

(2) 研究発表の成果

本発表は、IGC Joint Session with China-Japan-Korea Joint Conference on Geographyにおいて、8月24日（水）に行われた。発表内容に関連して、天然資源の利用形態を研究する地理学者から、流通に乗らない生物種の利用形態と、日本における内水面漁業と中国をはじめとする東アジア諸国における例との差異がいかなるものか、に関して質疑が得られた。水産資源とならない生物種に関しては、過去に肥料会社に出荷された例があったことは確認していたが、末端における利用形態は把握しておらず、満足のいく回答とはいいがたい結果となった。また、海外における事例に関しても、部分的な回答のみしか行うことができなかった。本来、内水面漁業は中国をはじめとするアジア諸国やアフリカ諸国などで盛んに行われているものであるた

め、今後は資源利用や流通形態、発展途上国における湖沼の環境改変と漁業の関連等、本研究と比較すべき対象への調査研究が必須である。日本における内水面漁業と湖沼の利用形態を世界と比較し位置づけるためにも、本発表を通して導き出された諸課題を今後の研究に活かしたい。

(3) その他

本発表を通じ、湖沼の多面的な利用を目的とした人為的な湖沼環境改変と環境変化に伴う内水面漁業従事者の対応に関し、霞ヶ浦の事例を紹介できた。IGC Joint Session with China-Japan-Korea Joint Conference on Geographyへの参加を通じて、各国の研究者たちと知

り合い親睦を深めることができた。今後はそのネットワークを活用し、アジア諸国における湖沼の環境変化および内水面漁業のあり方に関する研究に取り組んでいきたい。

文 献

- 卯田宗平 2011. 鵜飼い漁をめぐるポリティカル・エコロジー——中国・長江中流域における漁場面積の減少と漁師たちの対応. 国立歴史民俗博物館研究報告 164: 63–87.
- John, C., Hudson, J. C. and Ziegler, S. S. 2014. Environment, culture, and the Great Lakes fisheries. *Geographical Review* 104: 391–413.

(筑波大学大学院生命環境科学研究科)